

「おおけやき」では、上毛新聞のジュニア
俳壇・ジュニア詩壇・青春短歌に掲載された
本校児童の作品をご紹介します。

詩の部

(三月二十九日掲載)

臨江閣に住みたいな

三年 中村 かほ

門を入ると大きなシャチホコ二ひき
屋根で逆立ちしてた
百年前のたてもの まるでおとの様が
住んでいるおしろのよう
くつをぬいで中に入る こげ茶色の
長いろう下を歩くと部屋がいっぱい
迷路みたい
二階に上がると広いお部屋がある
まるで野球場のようだ
はしからはしまで大またで二十一歩
お兄ちゃんときょうそうした
あまりにも広いから一人でねたら
夜こわそう
窓が大きくてきれいな庭を
見下ろすと、おひめ様になった気分
きれいなお着物を着て住めたらいいな

(四月十一日掲載)

夜のしんとした家のろうか

五年 秋本 颯太

うちの家のろうか
いつでもしんとしてる
そうじ以外
人が通るときだけ
ドンドン
ろうか
夕方は人が通るたんびに
電気がつき
ろうかが歌うのだ
まるで
ミュージックコンサートみたいだ

夜になると

「しーん」

ろうか
ただトイシの時計だけ
暗やみでおどってる
ろうか
「誰か通ってヨ！」とも言わない
それが夜のしんとした

いつもどおりのろうか

生きている

(現中一) 山田 華蓮

私達は今
かなり生きている
例えば
いたいと感じる
それは
生きているから
なやみがある
それは
生きているから
傷つく
それは
生きているから
だから私達は今
かなり生きている

(五月二日掲載)

いもうと

五年 掛川 心愛

わたしの
いもうとは
0さいのとき
ほっぺたが
びよんって
のびていたけど
1さいになつて
あんまりほっぺたが
びよんって
のびなくなつた
2さいもあんまり
のびなくなつた
3さいものびなくなつた
でも、のびてものびなくても
いもうとが世界一
大スキずっと大スキ

ぐらぐらゆるる歯

五年 河原 恵輔

ぐらぐらの歯があるよ
今年はいっぱい歯がぬけたな
今日はクリスマス・イブ
ケーキ食べたら、ぬけちゃいそうだよ
ぐらぐら、ぐらぐらなんかな
早くぬけちゃえばいいのになあー
サントヤやプレゼントも気になるな
ぐらぐらの歯も気になるな
夜までにポロって取れてね



学校の中で聞こえる音

(現中一) 星野 愛心

休み時間では
サッカーボールがけられる音や
みんなが走っている音
仲よくしゃべっている声
休み時間に聞こえてくる
授業中では
みんなが音読をしている音や
問題をとく時に
すごいえんぴつの音がする
とても静かな時もある
給食では
みんなの笑い声や
楽しそうにしゃべっている人の声
牛乳がもう少しで終わる音がする
学校の中でもいろいろな音がする

(五月九日掲載)

長なわ

六年 黛 芽依

冬になると
体育の時間になわとびをする
私は一人でとびなわとびは得意
だけど長なわは苦手
だって私がつかえると
みんなにめいわくがかかったり
責められるのではないかと思うから
だけど
長なわをやっていると
ひっかかっても
「どんまい」
と励ましの声が聞こえた
長なわのいいところは
みんなが励まし合えることだと思った

景色

五年 永田 龍汰

きれいだな
きれいだな
すわって
景色を見てみると
青空見えて
雲動く
山も見えて
きれいだな
景色は
気持ちがいい
すき通る
景色はいろいろ
きれいだな

妹

五年 小沢 あいら

どうしてぎゃんぎゃん泣いているの
ママがだっこをしたら
泣きやんだ
そしたら笑って

こっち見た
そしたら小指を

にぎってくれた
妹、小指をにぎって笑ってる
どことがそんなに
おもしろいのかな

おばあちゃんちのにおい

五年 斎田 侑夏

おばあちゃんの家は
不思議なおいがる
何だか忘れられない
落ち着く
におい
ぼやいて
なるにおい
なんだろう
友だちの家とは
ちよっと違う
このにおい
私大好き
おばあちゃんの家
行くたびに思う
これからも
このにおいを
大好きでいたいな

(五月十六日掲載)

草もち

四年 大竹 浩

草もちはおいしくて
しびい
ヨモギや
いろいろあって
いろいろな味やにおい
草って
どくとくにおいを出して
アピールしているのかな

節分

六年 黛 芽依

節分は
年の数だけ豆を食べる
私は「ナ」だから「ム」個
お母さんは私よりずっと多い
おばあちゃんももっと多い
20年後、30年後
私もそのくらい
年が来るのか
とって気が遠くなった
来年は「2」個食べる
一つづつに
とても重い価値が
あると思った

